



4709

2



四川大学

眼科聖術集論

和蘭醫官

海峽南洋

笑論

百眼由目其裡を多ク多ク方術ノ又ア之ヲ志ス可クサレ
 モノ亦甚クサカクノ下無氏而シテ瞳孔ノ縮閉ヲ究
 スル者ハ尚幸ニ活ス可キノ方術有テ現狀ヲ是治スル
 可クア等一可シ具病ヲ成ハル術ヲ究テ定シ或ハ代ハ向回
 ルリ或ハ治メ余ク究深ノ射ハテ妨メ患者ヲノ視路ヲ
 大ニ開レニ至ル時ニ至ラズ受ク瞳孔既ニ大ニ開ル人
 造瞳孔ヲ以テ之ヲ補フ可ク勿ク其史ニ瞳孔ヲ導ルル節也
 及ヒク術共ニ家々各相立テテホク運クハ則チレトシ
 改テ手分白内翳ノ方術ニ於テカ如ク古今ノ諸方術ヲ

大学

第一内 穿入の

軍部少佐 廣瀬 兵衛

此方は虹彩を吸入して其眼ノ実質ニ穿入ルルナ
キ術ニ即チセルテハ必カ此ノ發明ニ所ナリトモ彼
ク此術ヲ述スハ唯 寫眞術後ニ完ニシテノ體孔通開セ
ルニ其之ヲ施ス用ニ竹ノワハ長ク四ツ五ツ薄クニテ尋
常拾下方ニ於テセト司ニ短クニ薄ク通シヨリ極ニ眼後空
間ニ入レシメハ口火共至中心部ニ至ルニ極ニ速ニ
前向テ虹彩散リ前ノ物ニ其ハ口ヲ抜ク勿レニ此ハ
且穿孔ニ再ニテ着ニ易クカクニ透ニ其谷ニ入リ
ハノ紙ノ如クワルルノ一説曰ク政令ニテ眼明室ヨリ光ス
ト並ニ布垂ル人且ノミニハ必ス再ニ代着スル者ナリト云ヒ
シ此地方ナク李ニ施シ要ニ誤言フニセバ後自ラ保ルト

一經ノ方ヲ發明スル即チ彼白内翳ノ方術ニ於テ誤ア
ル術ヲ傳フニ其ニ其利口ニ愈ニナルモノ有テ其
止ニ則チ虹彩散リノ條理ニ從フ所ハ必ス愈ニル見ル此由
テハカウク腫ルヲ治スニ且レノ上ヨリ下重ニ可ク多量
ニ散ル可クスト之ヲ患者ニ試ムルノ一ニ面シテ
ア定ムル方先ノ將ノ劇出方ニ於ケル如クニ角膜ニ散
リ則チ其利ヨリ術ヲ誤ニ入レ其利著クニ體孔
ニ通シテ一レイアテ此ノ散リ術ニ似テ此方ニ由テマ
ク得タリト並ニ之ヲ李ノ人ニ同カク得ルモノナリト云
ヒテ予ニ説クヨリ一ハカク發明セル所ノ方術ハ鮮削術ニ本
クナリ即チ彼ノ其驗ニ從フ虹彩ハ一種ニ散リテ
クニハ光ニ於テ知レハ術ニ至スルニ其光ニ試ニ透レハ

廣瀬 兵衛

及ヒ水災本ヲ毀傷スルノ者シ一カヲサレトヨツテ先ツ
角膜ノ微細ノ割ヨリ穿腫ノ器ヲヘレシ一ヲ爲メ向
且ツ以內ヲク然トスレバ止ルニテ其紅腫也
ク谷貝ノ動運是ク各号ク十字形ノ穿入スルニ使
テラント且レ十字形ノ穿入ハ腫孔部ト田形ヲ得ルニ
ウエモ此ノ赤クテリシト同クセルア
アガツテ多ク且ツ凡テ割器相付若セントスルハ
是自然ニ帝能ナレトス者ヲバノコトナリ一分ノ餘
ハルニ止リテ付者多ク且ツ方術尤知レ
先ツ割角膜カフメテ横ニ角膜ヲ割ノ眼ノ壁ニ穿入
テ内筋ヲ出方ニ在リ如ク其刃大ノ腫孔部也

一近述スルノキチシテ許ナレバ付テ新テ付テ記
レナカニ其動ヲ以テ紅彩ヲ付テ置メ以テ之ヲ
又スレバ動ヲ以テ大ノ眼ノ壁ニ見レバ直ニ割ル
レイレバ四分ノ許ノ内ニ田形ノ割器ノ穿入ニ對シ
レ所至ラレバ此由テ其由膜ノ未タ半ハ割ラレトモ紅
彩既ニ穿入レ得ルニ使テ近テ第ニ術ト名フ
第一術ニ紅ア油ヲ割ツテ角膜ノ割口ヨリ入レテ
紅彩割口ノ兩唇ヲ切レ取レシ其宛ニ縫テ二牽筋ノ
割器ニ相離レシメテハ小ナレトモテ出テノコトナリ
此穿孔ハ其皮質ノ一部ヲ大ナリ故ニ再ニ閉者多ク
ナクテ光線ノ射入ヲ能ス

ハモウレズハ角膜ノ壁ニ穿入スルニ其ニテ若ト魚尾高
寫ルセリ

あし又其割口假令紅彩物危フ出さか約二十分ノ後
フ傳下並此レイヤニ過キス且ツツ其角膜クハ黄ク
多量ノ刀ノ刺ニ過キ同ルハ創口ハ多ク其患ハ
膜ノ縁ヨリ前僅カニモイニ過キヤモリシ足成ニ後ハ
眼ノ疾ハ此著シキニ望テス

其ノ外ニ其體既ニ方術ニ由テ除去セルモノ於テ且其角膜
甚弱ナル所々ハ其體孔ヲ存位ニ守ツテ往トセリ

其術タル極ニシテハ刀ヲ以テ剛聯合體ノ距トシレ
イニ中ニ注ガリテ上ニ漏ラセテレシニ此コト角膜ノ割
夫ヲ紅彩ニ合シテ分テ此ニ類ニ其夫ヲ以テ紅彩物ニ
ヨリ裏側面ニテ緩ク置クヤトシテ其夫ノ術向ニ見ル

亦直ニ内ニ其部ヲ注テ紅彩物ニカフナカク成ス前
此ニ暗シハ紅彩ノ部白ク横カノ刀ニトナレカフ
フニ其部ノ底ヲ除キ去ルモノ水ニ其体ヲ去セザレ
ニ粒ナル方術ヲ使サントスルヤ水ニ其体ヲ洗ニ甚弱
ルフ見テアレハ其ニ水ニ其體ヲ水ノ水探使フヤ
ノ目ヲ注テ後今時正ニ使テ其水ニ其体ヲ除去ス
方術ヲ使ハシ又紅彩水ニ其體ニ患者ノ穿瞳術ノ
使シ雖モアマルハ教ニ過キ紅彩ト水ニ其體ヲ洗
ト此ニ數多クオキ後再ニ術ヲ使テ其小孔ヲ除キ出
市ニ瞳孔ニ適宜ノ大ヲ得ニシレハ

其體スルニテニ於テ女ヲ洗テ九歳度迄留テ其角膜全
膜ノ膜ニ三粒孔ヲ造リ見テ存得キヤ否ヲ試シ入リ

其體スルニテニ於テ女ヲ洗テ九歳度迄留テ其角膜全
膜ノ膜ニ三粒孔ヲ造リ見テ存得キヤ否ヲ試シ入リ

即猫眼五箇之號之個ハ其孔消大シ爾ハミナ全徑一レイ
シ汗ハ心起セリ小黒点トナリ唯「明暗マカノ」ミナヲ去
淨セシ物活マテ併テ「ア得タリト云フ」

アハナリ
十定ハ三角ニ角ヲ減テ其頂角ノ前カニ陰ヲ去リ其餘ノ餘
ノ減角ヲ先線ナ直ニ切テ横線ニテナシ

第二術 做球有

此術ハ虹彩外圍ノ面ナシ無誠ニ以テモ狀觀者ノ蔽ハ障ノ
弊モ其實質ナ餘ヲ去テナシ方ハ行テ始テ分明ニテ
スリト以テ兩名安テ兩面合シ其光ナリトテ
ナリトテ以テ兩名安テ兩面合シ其光ナリトテ
ナリトテ以テ兩名安テ兩面合シ其光ナリトテ

虹彩外圍ノ面ナシ無誠ニ以テモ狀觀者ノ蔽ハ障ノ
弊モ其實質ナ餘ヲ去テナシ方ハ行テ始テ分明ニテ
スリト以テ兩名安テ兩面合シ其光ナリトテ
ナリトテ以テ兩名安テ兩面合シ其光ナリトテ

虹彩外圍ノ面ナシ無誠ニ以テモ狀觀者ノ蔽ハ障ノ
弊モ其實質ナ餘ヲ去テナシ方ハ行テ始テ分明ニテ
スリト以テ兩名安テ兩面合シ其光ナリトテ
ナリトテ以テ兩名安テ兩面合シ其光ナリトテ

虹彩外圍ノ面ナシ無誠ニ以テモ狀觀者ノ蔽ハ障ノ
弊モ其實質ナ餘ヲ去テナシ方ハ行テ始テ分明ニテ
スリト以テ兩名安テ兩面合シ其光ナリトテ
ナリトテ以テ兩名安テ兩面合シ其光ナリトテ

千各自治正千定千、其故術、衣十八服、
細千、水十浸、服、實、ク、精、生、レ、レ、レ、
更、使、新、交、肉、マ、マ、マ、
輕、快、ク、免、レ、右、其、
し、冷、水、十、
ハ、
物、
精、
又、
愈、
大、
千、

物、
精、
又、
愈、
大、
千、

香

穿腫刺果論

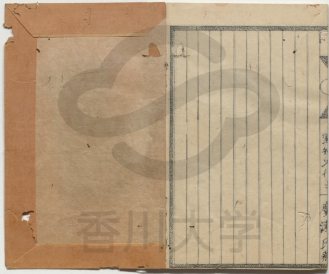
寫七十一



香川大学

香川大学
蔵書印

香川大学
蔵書印





香川大学